

航空業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者規 模
2017	1	17~18	貨物上屋棟内にて、到着貨物の引き渡しの為に、長物の貨物を2名で棟外へ運び出す際、バランスを崩して前のめりに転倒し、右手をつき挫傷した。	58	611	2	100 ~ 299
2017	1	1~2	航空機内で、ホットドリンクサービス中に、コーヒーポットで、コーヒーポットの蓋に不具合があり、注ぎ口とは別の空気の穴から熱いコーヒーが出てきて、手の甲にかかり、右手の甲の3分の2を火傷した。	33	519	11	1~9
2017	1	9~10	乗務時、離陸後ベルト着用サイン消灯後、最後方ギャレー内で飲み物を作成し、手洗い中、背後に置かれたカート2台のうち後方の1台が倒れかかり、背中にぶつかりカートとギャレーハンドルに身体が挟まれ、腹部が圧迫された。カート上ポットから温かい飲み物が、右手肘から手首、右手甲と小指全体にかかった。	23	362	6	1000 ~ 9999
2017	1	12~13	午前中の業務が終了し、休憩時間中、当社の従業員と思われる男性が、立体駐車場Gの下で倒れているとの電話連絡を受けた。連絡を受けて現場に駆けつけたところ、当該社員が倒れており、駐車場より転落したとの報告を受けた。	20	418	1	100 ~ 299
2017	2	19~20	乗務後、滞在先のホテルの浴室にて、足を洗うため両足につけたボディソープを洗い流そうと浴槽内で片足を上げたところ浴槽内で滑り背中（腰上部右部分）を浴槽の縁にぶつけた。なお、この時点では腫れはなく痛みもすぐ引いたため未受診・未報告であったが、	27	416	2	1000 ~ 9999

			その後も痛みがあったため後日に受診し報告した。				
2017	2	21~22	滞在中のホテル内バスルームにてシャワーを浴び、バスタブから出た時、バスマットを敷いた床面に両足をついた際に、一瞬意識を失った状態になり、1、2歩前にあるいた時、顔面を壁に打ちつけた。3本の右指を切った際の記憶はない。	39	921	8	1000 ~ 9999
2017	3	12~13	乗務中、着陸に向けた準備をしていたところ両耳がつまり、抜けなくなり、両耳共に強い痛みも発生した。	33	714	12	500 ~ 999
2017	3	16~17	花粉症および風邪のひき始めのような状態で飛行機に乗務した際、降下時の気圧と共に耳が詰まり、耳抜きするも抜けない状態となった。地上に降りてからも耳の詰まり具合は変わらず、少し痛みも出ていた。なお、体調については乗務前のブリーフィング時に本人から機長へ報告しており、何かあれば連絡するように、また無理をしないよう指示を受けていた。	30	719	12	500 ~ 999
2017	3	12~13	後方客室内にて、機内迷惑行為を反復している旅客がいた。粗暴旅客の足をロープで押さえようと拘束する際に、旅客が蹴る仕草をしたため、避けようとし、腰を負傷した。	43	921	19	1000 ~ 9999
2017	3	8~9	機内にて旅客搭乗に向けた準備中、新聞の束の入った袋を移動しようと持ち上げた際、腰に痛みがはしった。自己判断で、痛みはあるものの乗務を継続していたところ、飛行中の揺れや着席中の振動が腰に響くような痛みがあった。	30	611	19	1000 ~ 9999
2017	3	21~22	ギャレーにて着陸の片付作業を行っていたとき、オープンからスナック類を別容器に収納していた際、耐熱グローブを右手にはめ作業を行っていたところ、カレー容器の蓋がはずれ、グローブ未着用の左手手首内側にカレールーがかかり火傷した。	28	911	11	1000 ~ 9999
2017	4	9~10	客室後方乗務員席（R2）で、着陸に備え着陸姿勢をとっていたとき、機体が接地する際に通常より強い衝撃で接地し、着陸後に右肋骨背中に強い痛みを発症した。	24	239	12	1000 ~ 9999

2017	5	9~ 10	旅客搭乗準備中、機内後方右ドア付近の幼児用救命胴衣が収納されている天井収納棚を閉めようとしたが、手が届かなかった。飛び上がって天井収納棚を閉めようとしたところ、左母指が天井収納棚に突き当たり、痛みを発症した。	30	391	3	—
2017	5	12~ 13	乗務中、機内後方通路（座席35Cと35Hの間の通路）にて、カートを使用したドリンクサービス中、突然の縦揺れが発生し、カート上のポットなどを手で押さえたところ、右頸筋から肩に掛けて違和感を感じた。直後に痛みは発症せず、痛み止めを服用しながら乗務を完遂した。その後、しばらくして右頸筋から肩にかけて強い痛みが発症した。	23	714	19	—
2017	6	10~ 11	客室後方の左側乗務員席に着席し、着陸に備えた姿勢をとっていたところ、接地の際の衝撃により、左首筋に痛みを感じた。	41	239	19	1000 ~ 9999
2017	6	10~ 11	ギャレー内において、急いでドリンク提供対応をしており、扉を閉める際にギャレー台のバーの間に右手親指を挟んだ状態で、ギャレー台に装着されている扉を勢いよく閉めたため、親指に1cm程度の裂傷を負った。その後も出血が止まらず、強い痛みが続いた。	23	391	7	1000 ~ 9999
2017	6	10~ 11	降下中、着陸へ向けて前方ギャレーで片付けをしていた時、両耳が詰まり抜けなくなった。両耳共に痛みがあり、バルサルバ法を試みたが改善されなかった。当日は鼻づまり、耳づまりはなかったため乗務したが、鼻水と咳が出ていた。	33	714	12	500 ~ 999
2017	6	11~ 12	宿泊先ホテルから空港までの送迎バスを降車する際、階段で足を踏み外して臀部を強打した。痛みは感じていたが、業務に支障がない程度と自己判断し、勤務を実施した。しばらく市販の湿布薬を使用していたが痛みが治まらなかった。尾骨骨折と診断された。	34	231	1	1000 ~ 9999
2017	7	11~12	カウンターでの業務中、受託したバッグをベルトコンベアーへ流すために、バッグを持ちベルトコンベアーへ倒そうとした瞬間に腰部	21	611	19	500 ~

			を痛め、立ち上がれない状態となった。				999
2017	7	13~14	工場内の圧縮梱包機周辺で飛散した廃プラスチックのゴミをエアガンで清掃していたところ、機械の下に潜り込み機械の可動部まで進入してしまい、自動運転で動き出したフィルム梱包機の回転運動に被災者の頭部が挟まれてしまい負傷してしまった。	42	611	19	1000 ~ 9999
2017	7	8~9	派遣先事業場にて、入荷業務として商品の棚入れ業務を行っているときに空になった鉄製の台車（180cm×50cm×180cm）を入れ替える際に強く引っ張り誤って台車の最下部分が右足くるぶし外側付近に当たり、打撲した。	44	391	6	1000 ~ 9999
2017	7	18~19	工場内ヤードで、橋梁の横桁のたたみ作業及びふだ付作業をしている時隣で、横桁の漆接板をクレーンでばらしていた。クレーンオペレーターが玉掛合図者の巻き上げストップの合図がわからなかったため、H桁に並べてあった横桁が崩れ下敷きになり足を負傷した。	25	371	19	500 ~ 999
2017	7	18~19	着陸時、窓の外を見てまもなく接着すると認識した上で、脚は垂直におろし、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取った。着陸と同時にガツンと体にくる強めの衝撃を感じ、鋭い腰の痛みを感じた。窓側の頭上物入れが開き、窓側の酸素マスクが落下した。肩・背中痛みや違和感を旅客降機の機内整理時に自覚し、旅客降機後責任者へ報告。	29	239	19	1000 ~ 9999
2017	7	18~19	周辺の天候がやや不安定であった。着陸の際、窓から外を見て着陸するタイミングを把握し、脚を垂直におろして座席に深く腰掛けた状態で背中を背当てにつけ、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取っていたが、着陸時にやや強い衝撃を感じた。その際に、首から背中上部にかけて痛みを感じた。機内25ABC上の酸素マスクが落下、13ABC頭上物入れが開いた状況だった。勤務終了後、遅い時間であったため、そのまま帰宅した。	24	239	19	1000 ~ 9999
			当日は咳と鼻水の症状があり、二日前に診療を受け、処方された薬				

2017	7	7~8	を服用していた。乗務中、上昇時は右耳に閉塞感があったが耳抜きが出来ていた。巡航中も右耳に閉塞感があり、降下開始後、接客中に耳抜きが出来なくなり、両耳が塞がった状態になった。数回バルサルバ法で耳抜きをしては塞がるという状態を繰り返した。到着後は降下中ほどの閉塞感はなく、右耳が詰まっているような違和感があった。二便目も同じ状態で、全体を通して痛みは感じなかった。勤務終了後に受診し、中耳炎の診断を受けた。	27	714	12	500 ~ 999
2017	7	17~18	滞在先ホテルで仮眠後、食事を調達する為に5cm程の太いヒールを着用して外出しようとした際、ホテルのロビーフロント付近の50cm程の段差に躓き、転倒して足をひねり、外出を取りやめて部屋に戻った。夜に左足の甲から踝の部分にかけて激痛があったため、現地の病院を受診したところ、レントゲンでは骨に異常はなく、捻った際に踝に水が溜まり、腫れや痛みの症状が出た。	28	413	1	1000 ~ 9999
2017	7	12~13	乗務中、機内巡回をしている時に、降下開始に伴う気圧の変化により、突然左右の耳が徐々に詰まり出した。到着後も右耳は詰まっただままであったが、上昇中の気圧の変化で耳抜きが可能かもしれないとのことで、次便も乗務したが、結局一度は抜けたものの右耳は詰まりが取れず、音も聞こえにくい状態であったため受診したところ、航空性中耳炎と診断された。	29	714	12	500 ~ 999
2017	7	18~19	乗務中、上昇中は特に違和感はなかったが、降下開始後に機内の前方ギャレーにいたところ、両耳からゴーゴーと音が鳴り、同時に両耳が詰まった。その後、両耳に痛みを感じ、ほぼ聞こえなくなった。鼻をかんだり、顎を動かしたりしてみたが耳は抜けなかった。着陸後、痛みはなくなったが両耳は詰まった状態だった。なお、数日前より風邪の症状があり薬を服用しており、当日は鼻水が少し出ていた。	30	714	12	500 ~ 999
			空港貨物地区内で業務終了後、社用車の後部座席側のスライドドア前方に手を掛け、乗り込もうとした。同時に助手席に乗り込んだ				100

2017	7	20～ 21	別従業員がドアを閉めた際、左手指を挟み被災した。指から出血があり、流水で患部を洗い、アルコール消毒をし、絆創膏で応急手当をした。翌日に受診した結果、左小指挫創、左環指挫傷で、7日間の通院加療と診断された。	53	231	7	～ 299
2017	7	14～ 15	屋外ヘリポートにて、機体の点検を実施しているとき、開いているレドームのパネルを固定している突出したピンが、自分の不注意により目に当たった。	22	239	3	～ 499
2017	9	2～3	前方側にあるキッチン内で、コーヒーマーカーで作ったコーヒをコーヒーマーカーのポットからお客さま提供用のポットに移しかえている時、突然予期せぬ揺れがあり、両手がふさがっていたためにすぐに固定物につかまることができず、両足で踏んばった。体が浮くような状態になり着地した際に、左の腰のあたりに違和感をおぼえた。	30	416	19	～ 9999
2017	9	13～ 14	出発するために、旅客搭乗後、機内客室中央通路の手荷物収納棚を閉めようとしたが、手が届かなかったため、座席横足掛けに乗って閉め降りた。その際、収納棚の重みがかかり右足ふくらはぎに激痛を感じた。その後、右足ふくらはぎは腫れていた。	53	611	19	～ 9999
2017	9	11～ 12	客室巡回中に揺れが発生、急いで着席しようと自席に向かう途中で揺れが大きくなり、客席にもたれかかった際に腰をひねった。	38	714	19	～ 999
2017	9	2～3	日本時間早朝に、コックピット左席に着席し、シートベルトを着用の上、操縦業務を行っていた際に、高度FL350にて巡航中に気象データから予測及び回避不可能かつ強い揺れとの遭遇。突然の揺れに対する体の保持と同時に速度の変動に対する為のMCP speedの操作、スラストレバー、スピードブレーキの操作、シートベルトサインの点灯の指示の行為を瞬時に行う過程で腰に負担がかかる、その時点で腰に違和感が発生した。	48	714	12	～ 9999
			旅客機が出発時、客室前方通路で旅客搭乗中旅客の手荷物（キャ				

2017	9	18～ 19	リーバッグ)を手荷物収納棚に収納するのを援助していた際、旅客が急に手を放した為、手荷物が落ちないように支えた、その時バランスを崩し、腰に鈍痛を感じた。	45	611	19	～ 9999	1000
2017	9	1～2	離陸15分後、前方ギャレーにて機内サービスの準備を開始した際、床面に500円硬貨2個分程度の大きさの濡れがあり足を滑らせた。斜め外側方向に左膝を向けてしまい、無理な力がかかり足をひねり受傷。当該患部を瞬間冷却パックで冷却を実施し、帰国まで市販湿布薬および包帯にて冷却・固定をした。	32	239	19	～ 9999	1000
2017	9	13～ 14	乗務中の機内、客席20列目前後付近にて、機内右側の乗客用収納スペースの荷物整理を行った際、乗客の荷物（リュック2個、ポストンバック1個）を左から右へ動かそうとしたところ、荷物が重かったため腕に力を込めて押した、咄嗟のことで無理な力がかかり、腕に激しい痛みが走り負傷した。	29	611	19	～ 999	500
2017	9	23～ 24	機内台所にてお客様用の食事をオーブンで加熱後、オーブンのドアを開ける際、いつもは厚手のグローブを着用するが、その時は着用せずに開けたため、オーブン内の熱気（蒸気）が右腕に当たり火傷を負う。すぐに患部を冷やす応急処置をし、到着後現地で治療を受ける。	23	391	11	～ 99	50～
2017	10	17～ 18	着陸を認識し、乗務員用シートに通常の着座姿勢を取っていたが、大きな音とともに強めの衝撃があった。一部の旅客はびっくりした様子で、小さく声をあげている人がいた。腰に強く負荷がかかるのを感じたものの、痛みは無かったためチーフパーサーへの報告はしていない。次便乗務終了後、自宅への帰宅途中から徐々に痛みが出てきた。	27	239	19	～ 9999	1000
2017	10	9～ 10	宿泊先のホテル洗面所にて足を滑らせ転倒した際、左手の甲を強く大理石の床についた。激痛が走ったが、突き指との自己診断の下、水道水で冷却。入社までの間、痛みはおさまらず、手の平半	24	417	2	～	1000

			分に腫れが出ていた。乗務に支障はないと判断し業務は実施した。機内で冷却、湿布薬を貼るも、痛み腫れ共に増してきた。				9999
2017	10	6～7	宿泊していたホテルを出て、乗務のために空港に向かうクルーバス（ホテルの出入口に駐車）に乗り込もうと早歩きをしていた。（他のクルーに遅れをとっていたため）クルーバスの前に到着した際、早歩きをしていたので勢い余って転倒した。その際、左手中指から地面につき、強打してしまった。	28	419	2	～ 999
2017	10	15～ 16	空港内（受託手荷物仕分け場）にて手荷物（スーツケース等）仕分け作業中に腰部にやや痛みを感じていたが、そのまま作業を続けていた。その約2時間後、航空機側での作業へ移り、航空機貨物室ドアサイドにて手荷物をとりおろした際、再び腰部に激痛が走り作業できない状態となった。	26	611	19	～ 499
2017	10	21～ 22	作業を終え、貨物搬送車で貨物事務所前まで助手席に同乗し移動した。到着後、搬送車の助手席から降りた際、濡れた路面に足を滑らせ転倒し、路面で顔面を殴打したものの。	19	416	2	～ 299
2017	11	13～ 14	分割搬送用車両を所定の位置に停車させ、荷台ドアを開け次の作業に向かうため振り返ったところ、ドア開閉用ダンパー不良によりドアが下がり、頭部のヘルメットを強打し、受傷した。	37	221	3	～ 9999
2017	11	20～ 21	路面は所々凍結している状況だったため、足元に注意しながら出発前の機外における点検を実施し、点検終了後、機内に上がる階段までを歩いている際、薄く凍結した路面に気付かず、足を取られ顔から転倒した。顎を地面に打ち付け負傷し、乗務を中止し、空港近くの病院にて受診した。	31	419	2	～ 9999
2017	11	20～ 21	到着Bag取りおろし作業中、腰の高さ程度のLDLブリッジデッキからカバンを降ろしている際、25kg前後のカバンを数個降ろしたところ、右脇に違和感を覚えた。翌朝以降も痛みがあり、後日激痛があったため、病院を受診したところ、肋骨骨折と診断された。	51	611	19	～ 299
			飛行中、エコノミークラス化粧室内で意識混濁により倒れている旅				

2017	12	2~3	客を発見した。応急処置実施中、突然、旅客の意識が戻りパニック状態になって予想外の動きをした。両足が腹部と右腕に数回強く当たりバランスを崩した際、左腰部を化粧室前の壁に強打した。その後、右親指付け根から手首内側に痛みと赤みを伴う腫れがあり、患部を冷却剤と湿布で応急処置をした。当日は最後まで勤務し、業務終了後、病院を受診した。	24	921	3	1000 ~ 9999
2017	12	22~23	国際線に乗務後、空港から宿泊ホテルへのバス降車時、通路20cm程度の1段の段差につまずき左足首を捻った。多少の痛みはあるが腫れや内出血も見られず、打撲程度と判断し就寝した。翌日も多少の痛みは感じたが、歩ける状況であり通常通り乗務し帰国した。帰宅後、腫れと内出血が見られた為、救急外来にて受診し、剥離骨折の可能性があり、後日の再受診時に左足部捻挫（二分靭帯損傷）と診断された。	30	231	2	1000 ~ 9999
2017	12	17~18	乗務員用座席に着席中、ビジネスクラス最後列座席裏に収納していたアメニティーが離陸滑走の反動で滑り出てきたため、左に体を捻りながら拾った。事象発生直後や乗務中は痛みや異変はなかったが、宿泊先ホテルに到着し約14時間経過後、背骨の中央下部あたりに何かが刺さるような痛みが生じた。一時的な痛みであると自己判断し、復路便も乗務した。2日間様子を見たが、痛みが治まらなかったため整形外科にて受診した。	24	911	19	1000 ~ 9999
2017	12	1~2	昼勤務の残業時間帯に、貨物機に貨物用パレットを載せていた。載せたパレットを固定するため、センターロックを掛けようとした際、パレットが動き出し、本人の方に近づいて来た。パレットをかわすことができず、足の甲の上のにり負傷した。	36	391	6	50~ 99
2017	12	23~24	往路の乗務終了後、タクシー乗車時に、被災者は後部座席に乗り込もうと前方ドアの縁に手をかけていたところ、前方座席に乗り込んだ別の客室乗務員がそれに気づかず、勢いよくドアを閉めたため、タクシーのドアに指を挟まれ負傷した。	24	231	7	300 ~ 499

2017	12	12~13	<p>空港内の当社格納庫入口付近において、航空機の整備のため、機体を牽引車両で格納庫に入れようと牽引車両を動かした際、何らかの原因で航空機の左主脚が折りたたまれたことで、機体が左に傾き、当該者が左翼と地面との間に挟まれた。救出後、搬送先の病院で死亡した。</p>	31	239	6	300 ~ 499
------	----	-------	---	----	-----	---	-----------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html